

令和5年度 授業改善推進プラン 音楽科

1 課題点

【低学年】

- ・歌唱では、明るく伸びやかな発声の仕方、無理のない声、正確な音程などに気を付けて歌ことに課題がある。
- ・器楽（鍵盤ハーモニカ）では演奏しやすい手の構え方や、やさしい息づかいに気を付けて吹くことに課題がある。

【中学年】

- ・コロナ感染症対策で、前年度までの鍵盤ハーモニカ・リコーダーにふれる総時間が例年よりも少なかったため、器楽の技能の定着がまだ十分ではない。
- ・歌唱では、輪唱や二部合唱になくなった時に、自信をもてず弱い声になってしまう傾向がある。

【高学年】

- ・よりよい表現についての思いや意図をもていても、それを表現に結び付けたり工夫したりしていくことが難しい。

2 授業改善策

【低学年】

- ・階名唱やタンギング唱等を多く取り入れることで、無理なく反復学習する機会を増やし、技能の向上につなげる。
- ・歌唱では、一人や少人数で歌う機会をつくったり、階名唱に手の動作をつけるなどし、音程感を養わせたりすることで、一人一人が正しい音程を身に付けて歌えるようにする。
- ・よりよい表現とはどのような演奏なのかを感覚的に分かっている児童が多いので、それを表現に結び付けるテクニックは言葉で伝えていく。

【中学年】

- ・リコーダークエスト等のレベルアップ型の活動を取り入れることで技能の向上を図る。デジタル教科書の効果的な動画や音源も積極的に利用する。
- ・自然で無理のない発声で歌うために必要なことを具体的に教えていくとともに、できている児童が見本になったり言葉で伝えたりする機会を増やす。
- ・タブレット端末を効果的に活用し、音楽の思考力を働かせられるようにするとともに、時間を計画的に配分し実技演奏の十分な時間を確保する。

【高学年】

- ・タブレット端末での録音機能等を利用して、自分の演奏を振り返る機会をもったり、教師が一人一人の演奏を細かく聴取したりすることで個に応じた指導ができるようにする。
- ・全体、グループ、ペア学習のそれぞれの良さを生かし、形態や活動方法を工夫し、児童が楽しさ・安心感・適度の緊張感をもって歌えるようにすることで、個々の自信につなげていく。
- ・表現を工夫する余地のある教科書教材を用い、効果的なワークシートを作成したり、スクールタクト等での課題作成をしたりしながら、グループ学習を行うことで、友だちと協働しながら表現を高める楽しさを実感できるようにさせる。